

学校点描 プラス 十

保護司4名の方が学校を訪問しました。
学校を回った後、保護司の仕事は知らないだろうなあと話していました。
《K中学校》
NO.6 R4. 7. 4
担当：校長

6月18日（土）、20日（日）と暑い中でしたが、地区総合体育大会に開催されました。

結果は、卓球男子シングルスでN・Tさんが優勝しました。また男子団体では第3位に輝きました。ソフトテニス女子団体で第3位に輝きました。女子バレーボールで第3位に輝きました。また、野球とバスケットボールはいずれも優勝したチームとあたり敗れました。特に野球は、0-0の延長タイブレークまでもつれた試合でしたが、惜しくも力尽きました。これまでの応援ありがとうございました。

25日（土）、26日（日）と炎天下の中で地区中総体陸上競技大会が開催されました。

女子の結果は、1年100mK・Mさん8位、2年100mでK・Kさん優勝、3年100mでS・Mさん第3位、共通200mでK・Kさん第3位、共通800mでT・Aさん第4位、1年1500mでK・Rさん第5位、2.3年1500mでT・Aさん準優勝、共通走幅跳でS・Hさん第6位、共通走高跳でK・Aさん準優勝、I・Rさん第8位、共通砲丸投でM・Rさん準優勝、低学年4×100mリレーで第5位（K・Kさん、K・Rさん、T・Aさん、I・Mさん）、共通4種競技でS・C・Hさん第4位にそれぞれ輝きました。

男子の結果は、3年100mでU・Rさんが優勝、共通800mでK・Jさんが準優勝、H・Kさん第5位、2.3年1500mでY・Kさん準優勝、K・Jさん第6位、共通3000mでY・Kさん第4位、共通走幅跳でU・R2さん第3位、鈴木暖生さん第8位、共通砲丸投で星川怜紅さん準優勝、栗田瑛太さん第7位、共通4×100リレーで第4位（N・Tさん、K・Jさん、H・Kさん、U・Rさん）にそれぞれ輝きました。学校対抗では、女子総合で第3位、男子総合で第5位、男女総合第3位という見事な結果でした。

これで、3年生の多くの生徒の当たり前だった活動のひとつが終わりました。

ありがとうと言えなくなった友に

トヨさんが亡くなったみたいだ#

と息子からメールがきたのは6月20日でした。びっくりした。

トヨさんとは、〇〇高校のソフトテニス部でいっしょにコーチをしていた。

3年前から病気だった。知らなかった。

息子からのメールの後、もう高校を卒業した30代手前のトヨさんの教え子達からメールが入ってくる。

トヨさんはわたしのことをそんなに親友と呼べれるくらい、親密な中だとは思っていないと思う。わたしが、〇〇高校のコーチをお手伝いしたのは、息子がいる3年間だけだったから。

監督からは、女子の方を強化してほしいと頼まれた。そこには、トヨさんもいた。

トヨさんの年齢は私より3つ下。チームが弱くても、強くても、誰も見捨てずに、冷静で、温かい言葉をかける。いわゆるスポ魂のイメージの指導者とは違う。

トヨさんの子どもはいない。だから、他人の子どもの夢のために、本業の仕事を終えてから、18時~21時過ぎまでボランティアで生徒に付き合う。わたしは、同じ部活をしている息子を迎えに行っただけで指導する。

同じ指導でも、その心の奥にある気持ちは全く違う。息子の卒業と同時に手伝いに行くことがなくなったわたしと、今もなお入部してきた生徒のために、夜や休日もなく指導するトヨさんと、まったく存在価値が違う。

M トヨさんから、弱くてもやり続けることが大切なことを教えてもらいました。#

この女性は、3年間団体戦のレギュラーにはなれなかった。でも親元離れて寮生活をしていた。この子の最後の試合の日、ベンチにトヨさんは入って一生懸命励ます。点数がどんどん差がついていくのに、この子の得意なプレーにこだわらせる。最後、試合に負けて、ベンチに戻ってくると、トヨさんは必ず握手を求めて、そして言う

「お疲れさま」

いつだったか遠征で一緒に宿泊したとき、トヨさんが話していた。「僕は、最後の試合は、レギュラーの選手のベンチには最初からは入りません。レギュラー以外の選手からコーチに入ります。負けたとき、最後に“お疲れさま、よく3年間がんばった！”と言ってあげたいから」



M トヨさんは、いつもスランプのときは、冗談で笑わせてくれました#

トヨさんは、いつも選手の中で冗談を話している。ただの陽気な人だと選手は思っていたかもしれない。でも、宿舎に帰ると、監督と、トヨさんと、わたしとで、翌日の試合の作戦を夜遅くまで立てる。監督はいつも、「トヨはどう考える？」と聞く。するとトヨさんは、自分が考えた案が書かれた紙を出し、いろいろなケースを語る。

寝ないで考えたんだこの人は。こっちが恥ずかしくなる。

夢の日本一になった試合前日はもちろん、どんな小さな大会の前日も、一生懸命考えていた。教え子のために…。「でも最後決めるのは監督だから」とトヨさんは言う。自分の考えが採用されなくても、考え続けて用意する。それがトヨさんだった。

人様の子どもと一緒に過ごすのは本当に大変だ。仕事を終えて、疲れていきたくないと思う日がたくさんある。でも、高校生が一生懸命ひとつに打ち込む姿は、勇気をくれる。

今日は、地区総体の結果報告の全校集会をしました。「ありがとう」は、「当たり前」の反対の言葉なんだよと話しました。当たり前だった部活が終わった日。チームメイトと一緒に過ごした当たりの時間が終わった日。『当たり前』なんて幻で、いつか必ず終わりがきます。

「ありがとう友よ」と言うことができなくなった日、この幻に気づいたときには、友はわたしに別れの手を振りました。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。